

COWRA JAPANESE GARDEN & CULTURAL CENTRE

FRIENDS OF THE GARDEN NEWSLETTER

秋のニューズレター

涼しく、雨の多い異常な夏が終わり、ガーデンに秋がやってきました。通常よりも雨が多かったので、庭の緑はよく育ち、生き生きしています。池にはコイなどの稚魚がたくさん孵化しています。

遅めにやってきたオーストラリアカモのひなが、熱心な親鳥の世話で元気に育っています。また、渡り鳥が園内で目撃され、その中にはホオジロサギの幼鳥もいます。上空から見ると、まるで緑のオアシスのようです。

この庭園では4月下旬から5月上旬かけて見事な紅葉が見られるため、5月4日、5日には秋祭り「紅葉祭」が開催され、紅葉狩りをする絶好の機会です。紅葉狩り 2日間のフェスティバルでは、文化的なパフォーマンスやデモンストレーションが行われます。この秋、庭園と文化センターで皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

KOYO MATSURI:AUTUMN FESTIVAL

紅葉祭り オータムフェスティバル

カウラ日本庭園文化センターでは、春に桜をめぐる桜祭りがあるように、秋の紅葉をめぐるために紅葉祭りが行われます。カウラ日本庭園・文化センターでの開催は今年で2年目となり、「みどりの日」と「こどもの日」という日本の大切な祝日に開催されます。

入場は無料ですので、ぜひお越しください。

Wednesday 4th May - Greenery Day

4日（水）のプログラムは、庭園と日本文化に焦点を当て、以下のようなイベントが予定されています

茶道裏千家淡交会シドニー支部による茶会

著名なゲストによる講演

庭園所蔵の文化財に関するセミナー

折り紙の実演

ブックカフェ

Thursday 5th May - Children's Day

5日（木）のプログラムは、日本文化のパフォーマンスや子供向けのアクティビティが中心となっています。

茶道裏千家淡交会シドニー協会による茶会

オラナアーツユースによる和太鼓の演奏

国際着物クラブ（シドニー）による芸者の着物と化粧のデモンストレーション

日本の物語の読み聞かせ

折り紙ワークショップ

日本の子供向けゲーム・おもちゃ

盆栽のデモンストレーション

WHAT TO SEE INAUTUMN

秋の庭園の見どころ

秋は春と並んで、紅葉や椿の花など、庭園で最も華やかな季節です。次回の訪問の際には、ぜひご覧ください

イロハモミジ

ハウチワカエデ

オオイタヤメイ

ケヤキ

ツバキ (ヤブツバキ)

サザンカ

ナンキンハゼ

ナンテン

サルスベリ

ウメ

ハナカイドウ

KIMONO: HISTORY & SIGNIFICANCE

着物：歴史と意義

日本で着物が着られるようになったのは西暦500年頃、中国・唐との交流が盛んになり、宮廷の服装に中国風のものが取り入れられたのが始まりとされています。着物のようなジャケットの下に流れるような長いスカートを着用し、通常は絹で作られていました。奈良時代（710-784）には服装規定が制定されましたが、そのころから現在でも守られている規則の一つが、「右前」です。「左前」は亡くなった方に用いるため縁起が悪いとされています。

着物は”肩からかけるもの”という意味です。

反物は一本の長い布のことで女性用では長さ11.5m、幅26cm、男性用では長さ12.5m、幅42cmが標準寸法です。反物から一着の着物を作るには、下の図のように裁断と縫製を行います。女性の着物はもともと長目につくり、手で持ったり、ゆるく結んだりして引きずるようにして着ていました。今この長い部分はおはしよりといわれ、帯の下にたくし上げられています。

江戸時代（1603～1867）には、四角い袖のついた足首までの長さの巻き物で、幅広の帯を締めるといって、私たちが知る着物のスタイルが発展し、ほぼそのままの形で残っています。

1950年代から60年代までは普段着として、最近では冠婚葬祭や卒業式、節句、お茶会など特別な日に着用されるようになりました。着物の柄は季節に関係するものが多く、季節のモチーフが登場する数週間前から先取りして着用されます。例えば、春には花が咲く前に桜の柄を身につけます。

CULTURALCENTRE: NEW DISPLAY CABINETS

カルチャーセンター：陳列棚リニューアル

当園の文化コレクションを最大限に活用し、日本独自の文化や歴史についてより深く知っていただくため、展示棚とラベリングをリニューアルしました。季節や行事に合わせて展示品を入れ替え、常連のお客さまに、より多くの文化財を鑑賞していただけるよう努めています。

PROFILE: VOLUNTEERS AT THE GARDEN

ボランティア紹介

デニス・フォガティさん

ガーデンボランティア。2020年半ばよりボランティア開始。

Q：ボランティアに興味を持ったきっかけは？

A：「何か恩返しをしたい」と思い、ボランティアを選びました。庭園でのボランティアは、論理的でありながら楽しくて私にあります。

Q：ガーデニングは長年の趣味ですか、それとも最近ですか？

A：40年ほど前、ジェフリー・ホッジズの『Natural Gardening and Farming』という本を読んでから、ガーデニングに興味を持つようになりました。ホッジスは、菌類学、菌糸、土壌菌、バイオダイナミクス、パーマカルチャー、ホットコンポスト、マルチングなどのトピックを扱っていて、時代の最先端をいっていましたね。これらの用語が一般的に使われるようになったのは、ここ10年ほどのことです。

Q：庭の中でお気に入りの場所や季節は？

A：庭全体が好きです。巨大な岩や原生林など自然との調和や、遠景の中にある伝統的な日本庭園特有の植物、低木、樹木などが素晴らしいです。

Q：ボランティア活動を始めてから、最も興味深く学んだことは何ですか？

A：老若男女、国籍を問わず、私たちの庭が大好きな人が多いことです。庭を見たときの喜びや落ち着きがすばらしく、とても高い評価をいただいています。